

フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

4月下旬、長野市一
兎舎会議室で開催され
たNPO法人信州地域
フォーラム企画のコー
ヒーブレイクに参加し
た。

今回の講師は、安曇野市在住のステンレススチール具象彫刻家の中嶋大道さんだ。作品は全てハンドメイド。安曇野インター前の「白鳥」、道の駅おたりの「恐竜」、大町市霊松寺の「風神・雷神」などの作品を見た人は多いはずだ。プロ芸術家の印象を強く持っていたが、お会いすると白い顎鬚(あごひげ)で優しい顔立ちに、気さくな印象を与えてくれる。

今回の講師は、安曇野市穂高に生まれ、岐阜市高山町で木彫の修行をし、生家に戻って独立。アトリエ建設の時、鉄骨の溶接

に「面白い」と感じ、多くの素材で溶接技術を学ぶ。その試行錯誤から、特に加工が難しいステンレスと出会い、ステンレスを溶接して、誰も見たことも作った事も無い作品を作り出す。という独特

いるが、普通鋼より強度が高いため加工しにくい素材。誰も挑戦した事のない分野への取り組み意欲を公に「共とは」、「創生とは」など何気なく使う言葉の原点に真剣に向き合っている。本当に必要なもの

す。これから地方が生き残るためには、観光事業しかないと思いきや。安上がりの人真似イベント等は、何の役にも立ちません。イベントは町を美しくして本が、真の豊かさを得

皆共感を覚える。世界の風景を直視し続け、日本に似合うダイナミックなアートの創造。そして情報発信力が作品の魅力なのだろう。きっと4年後に開催される東京オリンピック・パラリンピックで海外から訪れる多くの訪日者に、中嶋さんの作品から日本の個性が強く発信されることを期待したいと思っただけでもあった。(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)

地域に向き合って夢を語り続ける人との 出会いの楽しさを体験してみませんか

な世界にのめり込んだ中嶋さん。ステンレスは鉄を主成分にクロムを含む合金で、錆を防ぐためのメッキや塗装を必要としないため、湿気の高い場所や強度を求める構造物など多くの分野で使用されて

を選択する姿勢が作品の原点なのだろう。中嶋さんが提唱する「世代を超えた風景の蓄財こそが日本を豊かにする」の中に、風景の蓄財・歴史の古色を付けた個性的で美しい町は、観光に繋がります。

るためにまずやることは「風景の蓄財」です。との主張。全国で展開され続けている地方創生によって、観光事業に一番大事な土地の個性・風土を、なまじりにしている現状に警鐘を鳴らす考えに参加者

ら田舎。数少ない素材の中から確かなイメージを作り出したいと語る中嶋さん。



地方には素材は多くない。無いから田舎。数少ない素材の中から確かなイメージを作り出したいと語る中嶋さん。